

私を変えた先生との出会い

私が教師を目指そうとしたきっかけは、小学校の時のある先生の存在があったからです。

先生は、小学1年と6年の担任であり、学年の変わった私たちへの対応力に心を動かされました。

1年生のときは、小学校に慣れるのに時間がかかり、毎日のように先生を困らせていました。それでも先生は、一人一人と向き合い、不安な事を必死に取り除こうとしてくれました。そのおかげで学校は楽しい場所だと思えるようになりました。

6年生のときは、最上級生として行動しないといけないのに、反抗期に入りかけていた私たちは勝手なことをしていました。そんな私たちにてさえ、コミュニケーションをとってくれたり、相談にのってくれたりしました。先生は、子どもたち一人一人をよく観察しており、「この子はこれが得意。」「この子になら任せられる。」といったような考えをしていたと、今思います。私自身、人の前に立ってリードしたり、話をしたりするのが得意だったので、学年代表の作文発表者や運動会の副団長を任せてもらいました。

また、子どもたちと一緒に考え、喜び、「先生」という存在を身近に感じさせてくれたのも先生に出会ったからです。

卒業式の日、普段は笑顔で接してくれていた先生が、6年間を振り返って話をしているとき号泣していました。私たちの成長を心から喜び、涙を流す先生の姿を見て、私も子どもたちにたくさんの愛情を注ぐことのできる教師になりたいと思うようになりました。

中学生の時、〇〇大学の教育学部に行くことを決め、高校で3年間過ごしています。時間はかかるかもしれないけど、絶対に教師になって、先生と同じ学校で仕事をするのが今の私の目標です。

生駒 咲妃
(高校生)